

# BLOB のアクセス層について理解する

100 XP

4 分

クラウドに格納されているデータは、急激なペースで増加する可能性があります。ストレージのニーズが拡大する中でコストを管理するには、アクセスの頻度や予定保有期間などの属性に基づいてデータを整理する方法が効果的です。クラウドに格納されるデータは、有効期間を通じてどのように生成、処理、アクセスされるかに基づいて異なる場合があります。有効期間を通じて活発にアクセスおよび変更されるデータもあれば、有効期間の初期に頻繁にアクセスされ、古くなるにつれて大幅にアクセスが減るデータもあります。また、クラウド内でアイドル状態のままとなり、格納されてからはほとんどアクセスされないデータもあります。これらのさまざまなアクセス ニーズに対応するために、Azure にはいくつかの "アクセス層" が用意されています。これを使用すると、ストレージ コストとアクセス ニーズのバランスを取ることができます。



Azure Storage には、BLOB ストレージ用のさまざまなアクセス層が用意されているため、最もコスト効率の高い方法でオブジェクト データを格納することができます。利用できるアクセス層:

- **ホット アクセス層:** 頻繁にアクセスされるデータ (たとえば Web サイトの画像) を格納するように最適化されています。
- **クール アクセス層:** アクセスされる頻度が低く、30 日以上格納されるデータ用に最適化されています (例: 顧客に対する請求書)。
- **アーカイブ アクセス層:** ほとんどアクセスされず、180 日以上格納され、待ち時間の要件が柔軟であるデータに適しています (例: 長期のバックアップ)。

次の考慮事項は、さまざまなアクセス層に当てはまります。

- アカウント レベルで設定できるのはホット アクセス層とクール アクセス層だけです。アーカイブ アクセス層はアカウント レベルでは使用できません。

- ホット、クール、アーカイブの各層は、アップロード中またはアップロード後に BLOB レベルで設定できます。
- クール アクセス層に格納されるデータについては、可用性が若干低くても許容できますが、ホット データと同程度の高い持続性、取得待ち時間、およびスループット特性が必要です。クール データの場合、ホット データと比較して可用性のサービス レベル アグリーメント (SLA) が若干低く、アクセス コストが高めであっても、ストレージ コストが低ければ許容できます。
- アーカイブ ストレージにはデータがオフラインで格納され、ストレージ コストは最も低くなりますが、データのリハイドレートとアクセスのコストが最も高くなります。

次の図は、汎用ストレージ アカウントでホットとクールのアクセス層のどちらを選択するかを示しています。